

# 平成27年度 神奈川県母子保健指導者研修会

## こどもが変わる！～自らはぐくむ安全力～

開催月日	平成27年11月5日(木)	14:00～16:00
会場	横浜情報文化センター	情文ホール
テーマ	「こどもが変わる！～自らはぐくむ安全力～」	
講師	日本セーフコミュニティ推進機構	白石 陽子 代表理事
	厚木市立清水小学校	長谷川 信一 総括教諭

### <講演の概要>

「地域と協働でつくるISSの取り組み」

日本セーフコミュニティ推進機構

白石 陽子 代表理事



### 1 ISS(インターナショナルセーフスクール)と認証制度について

ISSとはケガ及びその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める活動。現在、世界で約130の学校がISSに認証されている。日本では、大阪教育大学附属池田小学校が初めて認証を受けて(2010年3月)、続いて厚木市立清水小学校が同年11月に認証された。ISSに認証されるということは、けがや事故のリスクがない100%安全な学校として認められるのではなく、安全な学校づくりのための仕組みが確立され、機能していることが認められること。学校でのけがが多いから認証できないということではなく、安全になるための取り組みが体系的・継続的に展開されているかが重要。

### 2 ISS活動推進の8つの指標に基づいた安全向上の取り組み

8つの指標には、<体制>、<仕組>、<実践>の3つのポイントがある。<体制>とは学校、家庭、地域、行政の学校内外の協働を構築すること、学校づくりが地域づくりにつながり、分野と組織を超え協働がひろがる。<仕組み>とは取り組みを体系的に展開すること、S+PDCAサイクルを構築することであり、サイクルを繰り返していくうちにこどもが主体的に安全診断から行えるようになる。

S+PDCAサイクルとは①安全診断(See:課題の抽出)、②効果的な取り組み(Plan:計画+Do:実践)③取り組みの振り返り(対策の実施→Check:効果測定)④改善等(Act:改善等)。<実践>とは体制と仕組みを機能させる能力。子どもが取り組みの主体者であり、既存の資源(授業や委員会活動)を活用し、教員の負荷を最小限にすることで楽しく継続できるようになる。また、取り組みによる変化を確認していくことが大切で、例えば自転車での事故予防とヘルメット着用の必要性を伝えて、どのように着用率が変化しているのか数値化していくことが重要。知識の変化から行動の変化につながり、地域がどのようになっているか「見える化(可視化)」することが安全力の向上につながる。

### 3 セーフスクールによって変わったこと

けがの減少など身体面の変化はもちろん、精神面への支援など内面的な安全力の向上は大きい。自分たちで問題を見つけて対策を考え、その成果を発信する力が育成され、児童から学校へ企画書が提示された。また、前向きに学び、後輩世代への継承など長いスパンで取り組む姿勢など、安全力から広がる効果が得られた。子どもたちが状況を踏まえて行動することができ、こどもたちが落ち着き、落ち着いて勉強に取り組み、保育・教育活動に集中できるようになった事例もあった。認証とは最終ゴールではなく、安全な学校・安全力向上にむけたマイルストーン(節目・一里塚)、学校の安全向上のためのツールである。従来の安全対策を強化し、効率性や効果性が増す。子どもの力を信じて、保育園や学校を取り巻く地域社会とともに活動を進めていくことが大切。

### <8つの指標>

- 1.分野の垣根を越えた協働による推進基盤
- 2.取組の方針(政策)がセーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や教育委員会等の方向性と一致
- 3.全ての年齢・性別・環境・状況を対象とする長期的、継続的なプログラム
- 4.ハイリスクの集団・環境に着目し、弱者グループを対象としたプログラム
- 5.入手・活用可能な根拠に基づいたプログラム
- 6.外傷の頻度と原因を記録するプログラム
- 7.プログラム・プロセス・効果を測定・評価
- 8.国内外のセーフスクールネットワークへの継続的参加

## 「小学校の取り組みの実際

～しみずっ子の光輝く安心・安全な学校～

### 厚木市立清水小学校

長谷川 信一 総括教諭



厚木市立清水小学校は

2010年11月18日、日本で2番目に市町村立では初めて認証を取得した。

### 1 なぜ清水小学校で取り組んだのか

校内での外傷が年間5600件、一日平均30件発生している状況、子どもたちが生活する地域が3本の幹線道路と抜け道、田園や大型スーパーなど複合的な町並みが特徴であり、不審者の出現等もあり、安心・安全への課題があった。ISSは行動基準が安心・安全であることが明確であり、それを基に授業時の安全マニュアル、校外学習、登下校指導の扱いなど教育活動・指導ができ、学校文化として根付くことでチーム清水のスタンダードとなった。ISSが子どもを育て、ISSで子どもが育つ！と自分の大切な命を自ら守ろうとする強い心、自他の命を大切にしようとするやさしい心が育てることが学校の基盤づくりとなる。

## 2 主な本校の取り組み

運営基盤は学校、家庭(PTA)、地域の協働であり、安心・安全な学校づくりが地域づくりにつながっていく。すこやかネットワークはISS認証前からあった会議で、既存の取り組みを活用し、安全向上に取り組む運営基盤の整備を行った。

- ① すこやかネットワーク会議(学校、PTA、自治会、民生委員など地域の代表者が出席)
- ② しみずっ子見守り隊(登下校時や荒天時の安全確保、年に数回情報交換会を開催し地域の様子を共有)
- ③ しみずっ子すこやか基金(学校のバザーの収益をISS基金にし、環境づくりに必要なものを購入)
- ④ 学校内では教職員と児童がパートナーになり、児童会の委員会活動、学習のなかでの取り組み
  - ・校内での外傷軽減の取り組み(出合いがしら衝突防止ミラー、注意が必要な場所を目立たせる注意喚起ライン、安全点検など環境づくり)
  - ・交通安全(交通安全子供自転車大会への参加、警察との交通安全教室)
  - ・防災への取り組み(緊急地震速報による避難訓練、近隣小学校と連携)
  - ・心を育て、心をむすぶ取組(ビオトープ、緑化運動を通じた活動で学校内に癒しの空間を作る)
- ⑤ 内・国際的なネットワークへの継続的な参加

## 3 今後の課題

- ・けが、自転車事故の予防、通学路の安全確保はもちろん、友だちとのトラブルからのいじめ防止や防災対策が重点課題である。友だちとのトラブルによるけがはいじめであり、「いじめは心のけが」として防止していく。
- ・卒業生が進学する中学校で、しみずっ子の声から中学校がISS認証取得することになった。
- ・近隣小学校とのネットワーク強化については近隣小学校5校合同引き渡し訓練、中学校の認証取得へ、地域とすこやかネットワーク会議など学校文化の継承、活動をひろめていく。

\*ISSの活動については

日本セーフコミュニティ推進機構ホームページ(<http://www.jisc-ascsc.jp>)をご覧ください